

はりま病院広報誌



第32号

2019年1月 発行

編集発行

特定医療法人社団仙齡会
はりま病院 広報委員会

平成31年 新年のごあいさつ

理事長 荒尾 潤



新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。皆様には、さわやかな新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。昨年中、仙齡会、太子福祉会に賜りました数々のご厚情とご支援に対しまして心より御礼申し上げます。

昨年は昭和63年築で老朽化が進んでおりましたいなみ野病院本館の改修工事に着手致しました。また平成31年1月より介護療養病床から介護医療院へ転換すべく改修工事を計画しており、平成31年半ばには完成予定です。東播磨初の介護医療院として模範となるような施設にすべく努力してまいります。

太子福祉会では平成30年4月より2施設の認定こども園を開設致しましたが、両園ともに定員を大きく上回る数の応募がありました。少子化にも関わらずこども園の需要は高く、昨今の女性の就労率の高さをあらためて実感致しました。労働力不足が深刻な我が国におきまして、働くお母さんへの更なる支援が重要であると思い、今後更にお子さんの受け入れ体制を充実させ安心安全で素晴らしい幼児教育ができる施設に育てていきたいと思います。また弊会のこども園は特養に隣接しており、お年寄りとこどもたちとの交流が盛んで双方に良い影響を及ぼすことが出来ると考えております。

仙齡会では地域の急性期医療、慢性期医療、在宅医療、訪問看護などを担い、太子福祉会では介護施設、通所介護、訪問介護、保育施設を運営しそれぞれのサービスを切れ目なく提供する事により地域に貢献していきたいと考えます。これからもさらに良いサービスを提供出来るよう日々精進して参ります。

昨年は仙齡会、太子福祉会、おかげさまで特に大きな問題もなく運営することができました。本当に有り難うございました。

今後ともさらなるご指導、ご鞭撻をどうぞよろしくお願い申しあげます。
それでは、平成31年が皆さんにとりまして、素晴らしい年になりますことをお祈りしつつ、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年の御あいさつを申し上げます。 あけましておめでとうございます。



看護部長 倉持 恒子

昨年4月に診療報酬同時改訂があり、地域医療包括ケアシステムが本格的に動き出し、当院の様な民間病院から地域の診療所、介護施設又は在宅への退院を支援するといった、医療・介護のネットワークが重要になって来た1年でした。

今年はどんな年になるのでしょうか?やはり昨年のシステムをより充実化する事に絞られると考えられます。そうした中で高齢者の方が住み慣れた地域の住み慣れた家で、安心した生活が送られる様地域全体で支えて行く事が出来れば、本当にすばらしく理想的です。

お正月、コタツを囲んでおじいちゃん・おばあちゃんを中心に和やかで暖かい家族の団らんを思い描くと、心の中まで暖かく癒されますよね。皆さんはどの様に感じられますか?現実的には厳しい点もありますが、本来の姿ではないでしょうか?

お年寄りの方の笑顔がたくさん見られる地域は平和だと思います。

私達の人生の先輩であるお年寄りを大切にし、この地域で安心して暮らして頂ける様にわれわれ看護部も全力でお手伝いをさせて頂きます。

今年もどうぞ宜しくお願い致します。



新人職員紹介



まきはらひさみ
牧原 久美

11月より栄養課で調理補助として勤務しております、牧原久美です。周りの皆様がとても暖かく優しい人達ばかりなので、とても感謝しています。韓国ドラマにはまって10年、ディナーシャーなどにもよく行きます。皆様にご迷惑を掛けないよう早く仕事を覚えて、日々の業務がスムーズに行えるように頑張りますので、宜しくお願ひいたします。



ひらたまり
平田 真里

11月より栄養課で勤務しております、管理栄養士の平田真里です。新しい環境になり、慣れない面も多くご迷惑をお掛けしておりますが、周りの方々の優しいご指導に支えられながら、日々の業務に取り組んでおります。1年に1回はディズニーリゾートに行くことを目標にしており、夢はフロリダのディズニーワールドに行くことです。よろしくお願いします。



はまだのりこ
濱田 典子

10月より医事課で勤務しております、濱田です。周りのスタッフの皆様に優しくご指導して頂きながら、少しずつ仕事を覚えています。最近は、運動不足解消のためにウォーキングをしています。少し時間のある時に、近所を散策する程度ですが、良い気分転換になります。不慣れな点が多く、皆様にはご迷惑をお掛けすることもあると思いますが、よろしくお願ひいたします。

いきいきフォーラムに参加してきました

薬剤師 中川 政人

昨年11月に播磨町で開催された“新池いきいきフォーラム”的一コマで、薬剤師から「骨粗しょう症の薬」について、理学療法士から「ロコモティブシンドローム」についてお話をさせていただきました。少し難しい内容もありましたが、熱心に聞いていただき、多くの質問をいただきました。

骨粗しょう症治療の目的は、骨密度を増やし、転倒による骨折を予防することにあります。一昔前のお薬では、その目的を十分に達成することができませんでした。しかし、2010年以降次々と新しい薬が開発され、今では骨折を予防することができる時代となりました。飲み薬だけでなく注射薬もあり、また、半年や1年に1回だけのものもあるので、その方のライフスタイルにあった薬を選ぶことができます。自分の足で歩き続け、健康寿命を延ばすためにも、骨粗しょう症の早期発見・治療が大切です。女性だけでなく、男性も骨密度を測って早期発見に努めましょう。



理学療法士 野口 直樹



現在、我が国において「メタボリックシンドローム（通称：メタボ）」という言葉はかなり浸透してきましたが、「ロコモティブシンドローム（通称：ロコモ）」という言葉はまだ聞き慣れない方が多いと思います。そこで、ロコモの定義とその予防方法についてお話をさせていただきました。

“ロコモ”は、要支援状態になる前の段階で運動器の大切さを国民に広く啓発することで、要支援・要介護になる人を減らす、あるいは運動器障害を予防し、早期発見・早期治療を国民に呼びかける目的で作られた言葉です。変形性関節症や腰部脊柱管狭窄症、骨粗しょう症も“ロコモ”になる一つの要因として考えられています。まずは、ご自分の体の状態をしっかり理解し、その上で必要な運動を行うことで要介護状態になることを未然に防ぐことが重要です。「私は大丈夫」と思わず、不安なことがあればすぐにかかりつけの医師に相談しましょう。



年男年女の抱負・舞

私は平成29年4月に看護師の資格を取得し、同時に当院に就職させて頂きました。当院は、患者様のためにひとりひとりの職員みんなが力を合わせている病院であると実感していますが、私はまだまだ経験も少なくご迷惑をかけることばかりです。はりま病院スタッフの一員として患者様のちからとなれるよう、これからも勉強会や研修会へ積極的に参加し学びを深めていきますので、今後とも宜しくお願ひいたします。

稲岡 佑樹

年男と言えば生まれ年の干支が12年に1回訪れる年の人を指します。そしてさらに12年経てば自分は還暦を迎えます。そもそも還暦とは干支が60年で一回りと言いますが、正確には十干（じっかん）と十二支の組み合わせで形成されている事をご存知でしたか。十干とは「甲乙丙丁戊己庚辛壬癸」の10種類を指し、十二支「子丑寅卯辰巳午羊申酉戌亥」との最大公倍数が60年と言う訳です。なので、十干の「干」と十二支の「支」で「干支（えど）」と言うそうです。勉強になりました。また、よく耳にする「丙午（ひのえうま）」は60年に1回の出来事であると恥ずかしながら理解しました。「今の75歳は昔の65歳の体力」と新聞で読んだことがあります。きっと還暦でも働いているのか、働かされているのが分かりませんが、知らないこと、知らずにいたことを発見できることを一つの楽しみに次の12年を迎えていきと思うを辛亥（かのとい）です。

蓬萊 理志

リハビリテーション課、作業療法士の玉置頸です。はりま病院に入職して2年目になります。今年は年男という事で身体に気をつけながら、病院、患者様のため、よりよいリハビリを提供していくたらと思っています。どうぞよろしくお願いします。

玉置 頸

新年あけましておめでとうございます。新人看護師として4月に入職してはや半年以上が経ちました。入社当初は仕事を覚え、ついていくのに精一杯で周りの方々にはご迷惑をおかけしたと思います。日々先輩方にご指導・サポートして頂き、また温かく見守ってくださるおかげでここまで頑張ることができました。本当にスタッフの皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。今年は少し余裕を持ち、もっと周囲を見て行動できるように日々勉強し、患者様にもより良い看護を提供していくように頑張っていきたいです。

大長 碧依

クリスマスコンサート



12月15日に毎年恒例となっていますクリスマスコンサートを開催いたしました。



編 集 後 記

明けましておめでとうございます。年末年始のお休みはどのように過ごされたでしょうか。今年はゴールデンウィークも超大型の10連休になるようで、うれしい反面休み明けの出勤を考えると恐ろしいような気もします。平成最後の年が始まりました、新しい元号を楽しみにしつつ今年も1年頑張っていきたいと思います。

三宅